

令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・地域の施設(せせらぎ館)や外部人材(野菜作りでお世話になった方)等を活用した、見る・聞く・触れる・作る・探す・育てる・遊ぶなど学習活動により、児童の興味・関心を引き出しながら気付きを深めることができた。
- ・育てる植物を自分で決めたり、一人一つは育てたりすることで愛着をもち、植物を世話する意欲を継続させることができた。
- ・1年生と2年生のペア学習の機会を設定したことにより、2年生の満足感や達成感などのやり遂げた気持ち、1年生のこんなことやってみたいという気持ちを育むことができた。

(2) 課題

- ・単元で取り扱うテーマ設定において、児童の興味・関心にはらつきが生じることを踏まえて指導を工夫する必要がある。
- ・学習活動を楽しむことはできているが、気付きや表現の質を高められるような手立てを十分に講じていない。
- ・自分の育てている植物以外の植物や生き物への気付きの質が低いので、興味・関心を広げられるように気付きの場や関わり方を工夫する必要がある。
- ・他教科で学習したことを生活科に生かせるように関連付けを図る手立てが十分ではない。

2 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の観察等では、観察の視点を提示することを継続する。タブレットで写真を撮り、記録し共有する等、自分の育てている植物や友達が育てている植物の変化・成長を比べられるようにすることでより気付きの質を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫する等、どの学習活動に当てはまるのかを確認することで、目的を理解した上で活動できるようにする。 ・学習のまとめでは、絵、劇化、文章等様々なアウトプット方法を選択できるようにすることで、自分の得意な表現方法を生かし、豊かに表現できるようにする。 ・友達との交流を通して、友達のよい表現等に気付かせ、気付きの質を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のグルーピングを工夫することで、活動に抵抗感がある児童が安心して活動できるようにする。 ・毎時間の振り返りで視点を明確にし、理解したことや自分自身の成長に気付けるよう促す。 ・カリキュラムマネジメントや声掛けにより、他教科で習得したことを生活科で活用できるように意識付ける。